



エコアクション21
認証・登録番号 0000716

marol marine
NEXT GENERATION in CONTROLS

2013年度

環境活動レポート

対象期間： 2013年5月21日～2014年5月20日

発行日： 2014年9月10日

改訂日： 2015年3月23日

マロール株式会社

653-0037 兵庫県 神戸市長田区大橋町 2丁目1番34号

目次

目次	1
組織概要	3
I. 事業所名、及び代表者名	3
II. 所在地	3
III. 環境管理責任者及び担当者連絡先	3
IV. 事業の内容	3
V. 事業の規模	3
対象範囲《認証・登録範囲》	4
I. 認証・登録番号 0000716	4
II. 認証・登録事業者	4
III. 対象事業活動	4
IV. 対象事業所	4
V. 対象従業員	4
VI. 対象サイトの概略	4
VII. 環境活動レポート	4
環境方針	5
環境目標	6
環境活動計画	7
環境目標の実績、環境活動計画の取組結果とその評価、次年度取組内容	8
I. 二酸化炭素排出量削減	8
取組結果とその評価	8
次年度取組内容	8
(参考) 総製品生産量及び電力事業者排出係数	8
II. 廃棄物排出量の削減	9
取組結果とその評価	9
次年度取組内容	9
III. 上水使用量の削減	9
取組結果とその評価	9
次年度取組内容	9
IV. コピー用紙使用量の削減	10
取組結果とその評価	10

次年度取組内容	10
V. 化学物質の管理100%達成	10
取組結果とその評価	10
次年度取組内容	10
VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成	11
取組結果とその評価	11
次年度取組内容	11
VII. 環境配慮製品の拡販	11
取組	11
結果	11
次年度の取組内容	11
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	12
I. 適用される主な環境関連法規制等	12
II. 法令違反、訴訟等の有無	12
代表者による全体評価と見直しの結果	13

組織概要

I. 事業所名、及び代表者名

マロール株式会社 代表取締役社長 兎田 朗彦

II. 所在地

本社・工場	〒653-0037	神戸市長田区大橋町2丁目1-34	従業員数 70名
東京営業所	〒101-0023	東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402	従業員数 4名
福岡営業所	〒815-0073	福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号	従業員数 5名
札幌事務所	〒003-0834	札幌市白石区北郷四条2丁目9-15 第8北海マンション502	従業員数 1名
			合計 80名
			2014年5月時

III. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 代表取締役社長 兎田 朗彦
連絡担当者 業務部総務課 大西 正
連絡先 電話：078-611-2158 Fax：078-641-5856

IV. 事業の内容

産業分類：一般機械器具製造業

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売、サービス
下記自社開発製品を製造・販売。

大型船舶向け

甲板機械（デッキクレーン、カーゴクレーン、ウインドラス、ムアリングウィンチ、トーイングウィンチ等）の油圧及び電気・油圧式遠隔制御装置、バルブ開閉制御装置、他。

小型船舶向け

手動油圧操舵システム、アシスト式操舵システム、電気・油圧式動力操舵システム、オートパイロットシステム、エンジンリモコンシステム、姿勢制御システム、サイドスラスター制御システム、ウォータージェットコントロールシステム、エンジン制御盤、方位ディスプレイ、他。

その他開発依頼製品の設計・製作

V. 事業の規模

売上高 : 1,319百万円 (2014年5月期)
主要製品出荷量 : 182.5トン
従業員数 : 80名 (パート、アルバイト、契約社員を含む)
本社延べ床面積 : 7,309 m²

対象範囲 《認証・登録範囲》

I. 認証・登録番号 0000716

II. 認証・登録事業者

マロール株式会社
〒653-0037 神戸市長田区大橋町2丁目1-34

III. 対象事業活動

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売及びサービス

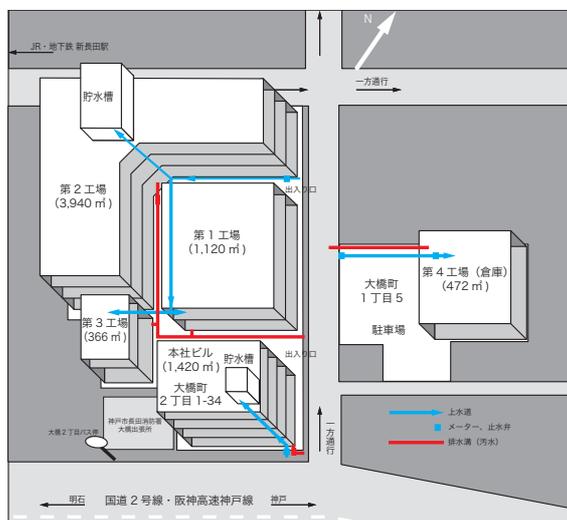
IV. 対象事業所

本社・工場・倉庫、東京営業所、札幌事務所、福岡営業所

V. 対象従業員

組織内で働くパート・アルバイトを含む全ての従業員。
但し、他の組織に所属する人には適用しない。

VI. 対象サイトの概略



本社・工場・倉庫：神戸市長田区大橋町2丁目1-3

札幌事務所：札幌市白石区北郷四条2丁目9-15 第8北海マンション502

東京営業所：東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402

福岡営業所：福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号

延べ床面積 7.309㎡

延べ床面積 60.03㎡

延べ床面積 25.48㎡

延べ床面積 66.0㎡

VII. 環境活動レポート

対象期間： 2013年5月21日～2014年5月20日

発行日： 2014年9月10日

環境方針

環境理念

当社は、環境活動を経営の最重要課題の一つと位置付け、環境への取組と環境負荷の削減に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献します。

活動指針

当社は油圧・電子制御機器の設計・製造・販売の事業活動を通じて次の項目に取り組めます。

- I. 環境関連法規制、及びその他の要求事項を遵守します。
- II. エコアクション21環境経営システムを構築・運用し、継続的改善と汚染の予防に努めます。
- III. 事業活動全般における環境負荷を削減するために次の活動に取り組めます。
 1. 二酸化炭素排出量の削減（電力・都市ガス使用量削減及び燃費の向上）
 2. 廃棄物排出量削減（産廃・一廃排出量削減）
 3. 紙資源の節約（コピー用紙使用量削減）
 4. 総排水量削減（上水使用量削減）
 5. 化学物質使用時の管理の徹底（化学物質管理の徹底）
 6. グリーン購入の推進
 7. 環境配慮型製品の販売促進

この環境方針は全従業員に周知するとともに社会にも公開します。

2005年8月5日 制定

2014年8月18日 改定

マロール株式会社

代表取締役社長 兎田 朗彦

環境目標

目標項目	単位	2012 (基準)	2013 目標	2014 目標	2015 目標	2016 目標
1 二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
1.1 電力使用量の削減	kWh	549,265	570,000	570,000	570,000	570,000
1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	13.08	13.08	13.08	13.08	13.08
1.2 自動車燃料 (使用量)	リットル	34,736	34,000	34,000	34,000	34,000
1.3 都市ガス使用量	m ³	43,895	47,000	47,000	47,000	47,000
2 廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	256	230	230	230	230
2.1 一般廃棄物	kg	6,490	6,500	6,500	6,500	6,500
2.2 産廃排出量	kg	36,763	40,000	40,000	40,000	40,000
3 上水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	10.42	10.00	10.00	10.00	10.00
上水使用量	m ³	1,759	1,800	1,800	1,800	1,800
4 コピー用紙使用量の削減 (枚数)	枚	282,875	280,000	300,000	300,000	300,000
5 化学物質の管理	%	100	100	100	100	100
6 RoHS規制対応資材の購入	%	100	100	100	100	100
7 環境配慮製品の拡販	%	90	100	100	100	100

2013年度は、2012年度を基準とした3カ年計画の1年目です。

2006年度より開始した環境目標も今回で第3期目となり、各目標項目の実績も安定期に入ってきました。そのため今期の環境目標は現状を維持しながら、細かな活動であと一步の削減を目指す方針です。

また、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量に関しては、状況にマッチした把握を行うために、製品生産量1トンあたりの排出量で評価することとします。

2012年度より営業拠点が対象サイトに加わりました。

拠点別目標		札幌	東京	福岡
電力使用量	kWh	1,300		6,300
自動車燃料 (燃費)	km/l	13.08	13.08	13.08
都市ガス使用量	m ³	96		
上水使用量	m ³	42		27

東京営業所＝電力、都市ガス、上水は賃貸(共同利用)のため集計不能。

福岡営業所＝オール電化のためガスは不使用。

環境活動計画

計画項目	計画内容
1 二酸化炭素排出量の削減	
1.1 電力使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・節電活動の徹底 空調温度の調整、必要に応じたオンオフ 不要な照明の消灯 工場設備の不要電源を落とす デマンド装置の活用
1.2 自動車燃料使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・運転記録の記入、燃費計算の実施、エコ運転の推進など
1.3 都市ガス使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・春/秋の空調機器使用削減、空調温度の調整など
2 廃棄物排出量の削減	
2.1 一般廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底、リサイクルの促進など
2.2 産廃排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分別の徹底、リサイクルの推進など
3 上水使用量の削減	
上水使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・節水活動の継続推進、空調機器の定期点検など
4 コピー用紙使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・両面コピーの徹底、廃紙の再利用、PDFの利用促進など
5 化学物質の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・MSDSの完備、保管・使用時のチェック、管理徹底など
6 RoHS規制対応資材の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・製品開発時に調達部材が対応品かチェックする、等
7 環境配慮製品の拡販	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷低減型製品(オートパイロット)への切替を進める

環境目標の実績、環境活動計画の取組結果とその評価、次年度取組内容

I. 二酸化炭素排出量削減

目標=2,500kg-CO₂/t 実績=2,604kg-CO₂/t 達成率=95.8%

目標項目	単位	目標値	2011	2012 基準	2013 実績	達成率
1 二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	2,500	1,863	2,500	2,604	95.8%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	436,370	339,068	422,506	475,093	91.1%
1.1 電力使用量の削減	kWh	570,000	555,201	549,265	595,430	95.5%
1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	13.08	12.94	13.08	13.07	99.8%
1.2 自動車燃料 (使用量)	リットル	34,000	13,259	34,620	29,812	112.3%
1.3 都市ガス使用量	m ³	47,000	42,033	43,895	50,225	93.1%

電力事業者排出係数=0.514kg-CO₂/kWh 関西電力H24年度

取組結果とその評価

電力、都市ガスの使用量増加により目標達成出来ませんでした。

増加した要因は夏・冬の空調負荷の増加。そして生産量8%増しによる生産工程での電力消費増です。

電力使用量は549,265kWhから595,430kWhへ8.4%増加しており、上記の負担増を考えると、生産効率は若干上昇したと考えられます。

電力事業者排出係数アップ (0.45→0.514)を据え置いた場合、製品ton当たり二酸化炭素排出量は2,400kg-CO₂/t程度まで下がり、目標値を下回る結果となります。

次年度取組内容

2014年度も同様の取組を継続します。

(参考) 総製品生産量及び電力事業者排出係数

	単位	2011	2012	2013
製品生産量	ton	182.0	169.0	182.4
前年比			93%	108%

	単位	2011	2012	2013
電力事業者排出係数	kg-CO ₂ /kWh	0.311	0.450	0.514

II. 廃棄物排出量の削減

目標=230kg/t 実績=229.24kg/t 達成率=100.3%

目標項目	単位	目標値	2011	2012 基準	2013 実績	達成率
2 廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	230.00	286.70	255.95	229.24	100.3%
廃棄物総排出量	Kg	46,500	52,175	43,253	41,824	110.1%
2.1 一般廃棄物	kg	6,500	5,440	6,490	6,320	102.8%
2.2 産廃排出量	kg	40,000	46,735	36,763	35,504	111.2%

取組結果とその評価

一般廃棄物、産廃排出量ともに目標値、基準値を下回る結果を出すことが出来ました。取組内容は特に変わっていませんが、生産量が増えた中で目標値をクリアできたのは日々の活動が浸透した結果と思われま

す。

次年度取組内容

2014年度も同様の取組を継続します。

III. 上水使用量の削減

目標=10.00m³/t 実績=9.87m³/t 達成率=101.3%

目標項目	単位	目標値	2011	2012 基準	2013 実績	達成率
3 上水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	10.00	8.63	10.41	9.87	101.3%
上水使用量	m ³	1,800	1,571	1,759	1,768	99.9%

取組結果とその評価

目標を達成することが出来ました。

使用量の殆どは空調関連です。暑い夏場もマメな空調のオンオフを行った結果、前年より若干の使用量増加に留めることが出来ました。

次年度取組内容

継続的な取組と、空調機器のメンテナンスなど同様の取組で活動を継続します。

IV. コピー用紙使用量の削減

目標＝280,000枚 実績＝289,750枚 達成率＝96.5% (枚数＝A4換算)

目標項目	単位	目標値	2011	2012 基準	2013 実績	達成率
4 コピー用紙使用枚数	枚	280,000	281,125	282,875	289,750	96.5%

取組結果とその評価

目標達成出来ませんでした。出荷増に伴う伝票数の増加(約20,000枚)を差し引けば、通常の使用枚数は削減出来たと考えられます。

次年度取組内容

2014年4月より一部伝票システムを変更したため、A4用紙の使用量が増加します(約20,000枚見込み)。そのため2014年度より目標数値を300,000枚に修正します。

今後も両面コピーの推進を進めると同時に、IT機器活用による紙使用量削減策を検討していきます。

V. 化学物質の管理100%達成

取組結果とその評価

・MSDSの完備、・特定化学物質の使用量集計(3ヶ月毎)、・排出基準を超えた場合の届け出、・塗料・溶剤・洗剤の購入・使用・管理に関する下記5ポイント。

- I. 危険物倉庫に保管、適正量を小出しする。
- II. 当用買い、不要なストックをしない。
- III. 塗料・溶剤等の缶は必ずフタをする。
- IV. 塗料・溶剤は使い切る。
- V. 廃缶は所定の場所に保管する。

チェックリストを用いた毎日の管理、月1回の安全パトロールなどを通して、化学物質の100%管理を確認することが出来ました。

次年度取組内容

2014年度も同様の取組を継続します。

VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成

取組結果とその評価

RoHS規制対応を要求された製品、および規制対象の新規開発品にはRoHS規制対応資材を用いること。今年度は新規製品がありませんでした。既存製品に関しては100%適応が継続されています。

次年度取組内容

2014年度も同様の取組を継続します。

VII. 環境配慮製品の拡販

目標項目	単位	目標	2011	2012 基準	2013 実績	達成率
7 環境配慮製品の拡販	%	100	33	90	95	95.0%

取組

省エネ効果のある製品(オートパイロット)の販売において、さらに省エネ効果の高い【エコモード】を搭載したモデルの販売比率を高める。

結果

対象製品の総販売台数621台のうち、環境配慮製品は585台となった。残りの非対象製品は殆どが海外向けの特殊用途。国内向けに関しては殆ど対象品となった。

次年度取組内容

製品の省エネ効果を高め、海外においても優位性を認めてもらい新型への切り替えを進める。

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

I. 適用される主な環境関連法規制等

適用される主な法規	主な適用事項	遵守評価
振動規制法	・ 特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・ 規制基準以下の遵守	遵守
騒音規制法	・ 特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・ 規制基準以下の遵守	遵守
兵庫県条例大気汚染防止に関する条例	・ 特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
水質汚濁防止法	・ 特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
廃棄物処理法	・ 一般廃棄物、産業廃棄物の運搬または処分を許可業者に委託する。	遵守
	・ マニフェスト写しを5年間保存する。	遵守
	・ 産業廃棄物管理票交付状況報告を提出	遵守
PRTR法	・ 特定化学物質の排出量移動量の把握と記録、基準値以上の取扱量の場合行政に報告	遵守
有機溶剤中毒予防規則	・ 作業主任者の選任	遵守
	・ 局所排気装置の自主点検	遵守
	・ 保護具の着用、半年に1度の健康診断	遵守
消防法	・ 屋内貯蔵所の届け出	遵守
	・ 少量危険物貯蔵所の届け出	遵守
	・ 消防設備等点検結果報告（3年に1度）	遵守
エネルギー使用の合理化に関する法律	・ 熱、電気を合算した使用量が一定以上になれば届け出 指定工場・事業所となる。	遵守
フロン回収破壊法	・ 使用済み業務用エアコンの適正処理	遵守
自動車リサイクル法	・ 使用済み自動車の適正処理	遵守

II. 法令違反、訴訟等の有無

- ・ 当社に於いて定期的を実施する上記遵守評価の結果、環境関連法規等への違反はありませんでした。
- ・ 尚、関係当局からの違反の指摘は過去3年間ありません。

代表者による全体評価と見直しの結果

2013年度は二酸化炭素排出量が増加したがその他の項目では環境目標を達成することが出来ました。

各環境目標項目共に実績は安定してきており、2005年のEA21開始以来、環境活動が定着したことを感じています。

項目別では都市ガス使用量の実績が低調でしたが、猛暑と空調機器の不具合という特殊要因がありました。電力も同様の要因により前年度の実績を下回りましたが、生産量増加を考慮すると充分評価できる結果と考えます。

今年度は環境活動のさらなる継続と共に、月1回の清掃活動「クリーンデイ」実施などで、より環境に優しい企業活動を目指します。

marol marine
NEXT GENERATION in CONTROLS

マロール株式会社

〒653-0037
神戸市長田区大橋町2丁目1番34号
tel : 078-611-2158
fax : 078-641-5856
<http://www.marol.co.jp>